

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人種栄会 グループホームほほえみ
(ユニット名)	そらユニット
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市萩坂町1750-1
記入者名 (管理者)	光成 美香
記入日	平成 19年 9月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気大切に、職員全員でアイデアを出し合い、その人らしく暮らし続けるための理念を作り上げている	○	地域密着型サービスの意義を確認しながら、理念に基づき、地域の中での暮らしを考えていきたい
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を意識できるよう、室内に提示し、日々のサービス提供場面において、理念の実践に取り組んでいる		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットの中に理念を記載している。家族様に対し、毎月お便りを発行し、事業所での取り組みをお知らせしている	○	地域に対する広報が不十分。今後は、地域の人に対しても情報公開していきたい
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	母体が医療法人ということもあり、近隣者の出入りが多い。そのため、職員は常に明るい挨拶を心がけている		
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り、運動会など、入居者とともに参加している。地区の小学生、中学生との交流も、体験学習などを通して行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	居宅介護支援事業所の職員とも協力しあいながら、在宅老人介護についての相談を随時受け付けている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で行っている。外部評価の結果を踏まえ、玄関周り、温度計、湿度計の設置など、改善に努めている	○	今後も、外部評価および家族様からの意見を大切に、よりよいサービスを提供できるよう努力していきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じ、事業所の活動状況、利用者の状況などの報告を行っている	○	参加メンバーからの意見、要望を取り入れ、運営推進会議を活発なものにしていきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡協議会を通じ、情報交換を行っている。2ヶ月に1回協議会開催。事業所独自での連携はできていない	○	連絡協議会をもっと活用し、市町村との連携を図っていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の養成研修に参加した。現在のところ成年後見が必要なケースはない	○	今後、成年後見が必要なケースが出てきたとしても、対応できる職員が一人しかいない。勉強会や研修に積極的に参加し、理解を深めていく必要がある
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為について、どういうことが虐待行為として捉えられるのか、日々の実践の中で常に意識して行動するよう、注意を促している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用料金や起こりうるリスク、事業所の対応可能な範囲、医療連携がどのように行なわれているかなどの説明を行い、疑問点を尋ねた上で同意を得ている。また、契約内容に変更が生じた場合は、文書などにて説明を行い同意を得ている</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に利用者の言動などから、思いを察する努力を行い、個々が感じる不満などに対し、スタッフ間での話し合いを行い、改善に努めている。また、こちらから利用者の意見や不満を聞きだし、利用者の立場に立って傾聴し、運営に反映させるよう努めている</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月担当スタッフより健康状態や生活についての手紙を郵送しており、状態に変化が生じた際には、随時連絡をとっている。金銭出納帳にて明細を明確にしており、毎月家族へ渡している</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談、苦情相談窓口を設置しており、苦情が出た際は、原因の追究と改善策を検討し、迅速な対応に努めている。運営推進会議に参加していただくことで、外部者へ意見などを表せる機会を設け、家族などから得られた意見に対し、前向きに受け止め、サービス改善へ努めている</p>	<p>○ 年に1度クリスマス会を開催し、食事会を行い、スタッフと家族との交流の場を設けている。今後も家族会などの開催を検討し、意見を聞ける場を増やして行きたい</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月カンファレンスを行い、職員同士の意見交換の場を設けており、質の向上に努めている。また、こちらから職員の意見や要望などを聞き入れる姿勢を心がけ、運営の反映に努めている</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の生活の流れを支援できるよう、日中は3名のスタッフが常に勤務している。非常勤のスタッフの確保も出来ており、利用者の状態の変化に合わせて、必要時のスタッフの増員、勤務調整を行なっている</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的にはスタッフの固定化を図っているが、やむを得ず、移動や離職になった場合は、引継ぎの時間を十分にとり、利用者へのダメージを軽減する配慮を行なっている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内での勉強会や講習会に参加しており、事業所外で開催されている講習会や研修にも参加できるよう、案内を掲示し、参加の働きかけを行なっている。免許所得の推奨を行っており、職員のスキルアップを図っている</p>	<p>○</p> <p>全スタッフが共有できるよう、毎月のカンファレンスなどで、研修報告をする機会を設けて行きたい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市のグループホーム協議会へ加入しており、定期的な連絡会へ参加することで、事業所外の同業者との交流の場を持ち、意見交換を行なうことで、サービスの質の向上へ役立てていく取り組みを行なっている</p>	<p>○</p> <p>他のグループホームへの見学や合同の事例検討会などの場を多く取り入れ、質の向上を図って行きたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>事業所内で定期的に交流、親睦の場を作り、気分転換を図れる機会を作っている。また、日常的に職員との会話を多く持つように心かけ、ストレスや悩みを出来るだけ把握できるように努めている。休憩場所の確保も出来ている</p>	<p>○</p> <p>他事業所との交流を多く持ち、事業所外でもスタッフ自身が、ストレスを緩和できる機会を増やして行きたい</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>週40時間の労働であり、残業はほとんどなく、就業規則がきちんと守られている。年1回の健康診断も行い、職員の健康管理も行っている。また、職員の資格所得に向けた支援を行っている</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>担当のケアマネージャー、医師、看護師、PTなどとの連携を図り、事前に生活状態や不安な点などの情報収集に努め、全職員が把握できるようにしており、スムーズな信頼関係づくりが出来るよう努力している</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>担当のケアマネージャーを通し、家族が困っていることや求めていることを十分に把握できるように努め、家族の立場に立って考え、よりよい信頼関係づくりが出来るよう努めている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で本人やご家族様の思い、状況などを確認し、改善に向けた支援の提案、相談をしながら信頼関係を築き、必要なサービスにつなげる		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から利用に至るまで、入居者の視点での対応を心がける。入居者は認知症の人が多く、本人自身が気持ちを伝えることが困難。ご家族様と十分に話し合いながら、本人と家族様に合った個別の利用開始の調整を行っていく		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなど知ることにも努め、暮らしの中で分かち合い入居者の得意分野で力を発揮してもらい、生活の技、生活文化の大事さを教えてもらい、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように声をかけている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月に一度ホームでの生活ぶりを手紙で報告し、来訪時には状況を伝えたり、コミュニケーションを図ることで情報の共有化を図っている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事に家族様を誘ったりしながら、よりよい関係の継続に努め、日頃の状態をこまめに報告、相談している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員がそうなってほしいが、現段階では一部の入居者のみ	○	生活習慣を尊重し、知人、友人、商店、行きつけの場所などと本人が付き合いを続けられるように支援していきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について、情報を職員が共有できるようにしている。心身の状態や気分、感情で日々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	居宅のケアマネージャーとの連携を図りながら、利用者、家族との関わりを保っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけ、思いや希望、威光の把握に努め、どのように暮らしたいか、何をしたいか、誰に会いたいかなど聞くようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦を十分に把握し、馴染みの物など希望に入れ、過去の具体的な情報を伝えてもらえるよう努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムを理解するとともに、一日の中でどのような体調の変化があるか、本人の全体像を把握し、できないことよりも出来る事に注目し、その人全体の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族様には、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換、カンファレンスを行って、課題となることを介護計画の作成に活かしている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などの評価をするとともに、状態変化した際には、検討、見直しを行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、排泄などの身体的状況や、日々の暮らしやエピソードなどを記録し、いつでも職員が確認できるようにしている。また、記録を基に介護計画の見直し、評価を行っている	○	個人ファイルの記録を基に、介護計画の見直しと評価を行って行きたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様や家族様の希望に応じた支援を行っている(移動美容室や併設のデイケア、デイサービス、また、外出など)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2ヶ月に1回、グループホーム運営推進会議にて家族、民生委員、近隣住民と意見を交換する機会を作っている。また、行事など行なう際、ボランティアへの協力を呼びかけているが、図書館など地域資源の活用は十分とはいえない	○	地域行事への参加や図書館など、地域資源を今後はもっと活用していきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者様の希望に応じ、併設のデイケア、デイサービス、移動美容室の利用を支援している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	併設されている居宅介護支援事業所を通じ、その都度、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている	○	併設されている居宅介護支援事業所を通じ、今後も周辺情報や支援に関する情報交換を行なって行きたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医療機関のほか、本人や家族の希望がある場合、家族同行で希望する医療機関での受診を行なってもらっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>併設の医療機関の医師と随時、入居者様の状態を連絡し、相談や認知症に関する診断や、治療を受けられるようにしている</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>看護職員を配置しており、常に入居者様の権能管理や状態変化に応じた支援を行い、看護職員がいない時間帯は、併設の医療機関と連携をとっている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>入退院時には、利用者様への支援方法などの情報を医療機関へ提供し、家族様とも情報交換しながら、退院後支援へ結びつけている</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>終末に対する対応指針を定め、家族、医師、看護師を交話し合いを行い、入居者様や家族様の気持ちに注意を払い支援している</p>	○	入居者様や家族様へ、少しでも安心し、穏やかに最後を迎えられるよう医師、看護師、ご家族様と話し合い支援していきたい
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>急変時にはすぐに対応して頂けるよう、併設の医療機関と連携し、入居者様や家族様が安心し、納得した最後を迎えられるよう、医師、職員が連携し対応している</p>	○	今後も、入居者様や家族様が安心し、納得した最後を迎えられるよう努めていきたい
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>入居者様が不安や混乱されないように、十分に説明を行い、ケアマネージャー、家族様との間で情報交換を行い、住み替えがスムーズに行なえるようにしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	慣れ合いの関係になり、言葉に注意する点が見られる。記録などの個人情報の取り扱いはきちんと出来ている	○ 常に言葉遣いには初心を忘れずに対応し、支援していきたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者様に合わせて声をかけ、色々な事を本人が決める場面を作り、支援している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者様の気持ちを尊重し、体調にあわせ買い物、散歩など希望に応じ支援している	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	移動美容室が来るため、希望される方はカットをして頂く。また、行きつけの美容室などがある場合は希望に応じ利用し、支援している。朝の着替えは一部を除いて、職員が決められている	○ 朝の着替えは本人に洋服を選んでいただくよう取り組み、支援していきたい
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを立てるとき、利用者様に食べたいものを聞いたりする。職員と利用者様が同じテーブルで、楽しく食事が出来るように心掛けている。片付けなども手伝っていただく	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人一人の体調を考え、飲み物、おやつなどの量を調整しながら楽しんでもらう。コーヒーやココア、牛乳、ジュースなど様々な飲み物や手作りのおやつなど毎日、お茶の時間を作っている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、必要な入居者様には時間誘導し、排泄の自立を支援している。入居者様の状態に応じ、使い分けが出来ており、また、出来るだけオムツを使わないよう、声かけや誘導をしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は午前中と決まっているため、入居者様はそれに合わせ入浴をする	○	入居者様の希望される時間に入浴できるよう支援していきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間不眠の入居者様には、生活のリズムを作るため、日中の生活を工夫した働きかけを行なっている。出来るだけ薬に頼らない、自然な睡眠を促している。入居者様の状態により、ソファで休んでいただいたり、コーヒー、紅茶などで落ち着いていただいたりと支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫や食事作り、野菜作りなど利用者様の経験や、知恵を発揮する場面を作っている。入居者様と一緒に買い物に行ったり、ドライブに行ったりして気晴らしの支援をしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員管理となっている。預かり金より買い物などは、入居者様に定額を渡し、買い物をしていただいている	○	入居者様の力量に応じ、出来る範囲で金銭管理が出来るよう支援していきたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の希望に応じて散歩、買い物、ドライブなどに出かけている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様が外出したい場所によって、職員の勤務を調整しながら出かけられるよう、支援している。場合によっては、家族の協力を依頼することもある		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときは、いつでも電話ができるよう支援している。手紙を書かれたときは、その日のうちに投函できるよう介助、支援している	○	今後も希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるように支援する
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めておらず、ご家族の都合のよい時間に、何時でも訪ねて来て頂けるよう配慮している。明るい挨拶を心がけ、来られた時には自然な形で歓迎している。居室は広く、他者様との気兼ねもなく過ごして頂いている	○	面会に来られた時、必要以上に気を使うことなく、入居者様とご家族がゆっくりできる時間と、空間を作るよう心掛けている
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアについて、常に意識しながら支援している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、1階の玄関のみ鍵を掛けているが、ユニットの入り口、個々の居室に鍵を掛けることはなく、自由に出入りしている	○	職員の見守りはさり気なく、かつ、細かい気配りを心がけ、外出しそうな様子があれば声を掛けたり、一緒について行ったりして、安全でできるだけ自由に行動できるよう支援する
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にフロア対応の職員を配置し、全体を把握できるよう心掛けている。夜間は、数時間おきに入居者様の様子を確認し、起きられたときはすぐに対応できるよう、居場所を配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物、洗剤、薬、裁縫道具などの保管場所を職員全員が把握し、必要に応じて、すぐに利用できるようにしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故や火災を防ぐため、日頃より検討、点検、訓練などを行っている。インシデントアクシデントを記録し、職員の共通認識を図り、事故防止策を検討している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時の対応については、マニュアルを作成し、何時でも対応できるように、周知徹底を図っている	○	全ての職員が応急手当が出来るよう定期的に学習や訓練を行っていく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路を把握し、入居者様とともに避難訓練を実施している。ホーム内、数箇所に懐中電灯を設置し、職員全員把握している	○	災害に備えた備品を準備しておく。日頃より地域の人々に声かけをし、協力を仰いでいく
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に家族らに説明し理解を得ている。また、状況に変化があるときは、その都度職員で話し合い、家族へも報告、説明をしている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況はバランスシートを活用し、職員間での情報を共有、把握しており、適切な対応を心掛けている。少しでも食欲や気分、様子に変化があるときは、バイタルチェックを行い、記録し、看護師や医師に報告。必要に応じて受診して頂く		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時、薬剤師より直接指導を受けている。薬の内容がよくわかるように、個々にファイルに保存し、すぐに見られる場所に置いてある。与薬時は二人で確認をし、誤薬の防止に努めている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表で排便のチェックを行い、状態によって水分の補給、乳製品の摂取をしていただいている。必要に応じて主治医に相談し、下剤など内服していただくこともある		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、見守り、必要に応じて介助している。週に一度、義歯消毒を励行している。毎日のコップ消毒、2ヶ月に1度の歯ブラシ交換を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人一人の病状や食事形態を把握し、日々おいしく、バランスよく食べてもらうよう、献立を立てている。水分摂取も入浴後、リハビリ後以外にも、スタッフから飲水してもらうよう促している	○	ホームで作った1か月分の献立を、栄養士さんに見てもらっている。糖尿の方、その他病状で、食事に気をつけながら支援していく
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	医療法人全体として、感染対策委員会を設置。部署会などを通じ、随時報告及び注意を促している	○	毎日のテーブル、椅子、ソファのアルコール消毒。コップの消毒、フロアの換気。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限リストを作成し、毎日、食材の管理をしている。調理器具は必要に応じて、アルコール消毒したり、ハイター消毒をしている	○	今後も同様に衛生管理を行い、食品、調理器具などの衛生管理をしていく
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先の窓ガラスに飾りをつけ、プランターに花を植え、メッセージボードを取り付けるなど、親しみやすさを感じるよう配慮している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめに掃除をし、障害物を取り除き、季節の花や飾り、カレンダーを作り生活感や季節感を取り入れた	○	利用者様が作られた作品を飾り、利用者様が安心感を持てるような、工夫をしていきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士がが話をされているときは、出来るだけ間には入らず、見守る程度にしている	○	出来るだけ見守り、遠監視を行い、その場その場の空気を壊さないようにしていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた私物を活かし、利用者様が快適に過ごしてもらい、安心した生活を送ってもらえるよう支援している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、フロア全体の換気を行なっている。空調は利用者本人からの申し出や、体調にあわせ調節している	○	利用者様が排泄時、失敗された場合に、本人のプライバシー、自尊心を配慮し、消臭剤や消臭スプレーを使用する
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	無駄な障害物を除去し、利用者様一人一人が、安全、安楽な生活を送ってもらうよう配慮している	○	スタッフ各自、利用者様の身体状況を把握し、その方に合ったケアをし、自立した生活を支援していく
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	毎日計算ドリルや、歌を歌ったり、カレンダーを作ったり、STによる学習療法を毎週行なっている	○	今後も継続していき、混乱、失敗を防ぎ、安心した生活を支援していきたい
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	スタッフとともに近くまで散歩に行かれたり、ベランダへは、個人で園芸を楽しまれている	○	定期的に利用者スタッフで、ホームの近くまで散歩をしたり、ベランダも開放的にしていきたい

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

リハビリに力を入れており、外来リハビリのほか、事業所内におけるリハビリ（チューブトレーニング、口腔体操など）を、PT、ST指導の元行っている。入居当初、車椅子移動だった方が、室内では手引き歩行にまでADLが向上している。もともと、併設されているデイケア、デイサービスを利用されている方が多く、馴染みの人たちとの交流を継続させるため、デイケア、デイサービスを利用させてもらっている。その事で地域の人たちとの交流を保ち、グループホームに対する理解を深めてもらえるよう努力している。健康管理には特に気をつけており、異常時にはすぐに主治医に連絡し、指示を仰いでいる。職員の中に看護師を配置し、24時間体制で連絡が取れるようにしている。